TOKYO GLOBAL 10

GLOBAL JOURNAL

VOL. 6
9.27.2019

2019　G10　ボストン・ニューヨーク研修報告特集号！！

令和元年度のボストン・ニューヨーク研修が 8 月 16 日～8 月 23 日の日程で行われた。全行程を通して天候に恵まれ、充実した研修となった。研修の一部をご紹介します！

2019「G10 成果報告会」は 10 月 8 日(火)
15：30～大会議室で行います！

8 月 17 日（土）

①　マサチューセッツ工科大学（MIT）訪問

Copley 駅-(Park St 駅)-Kendall/MIT 駅と、地下鉄で移動し MIT へ。今年も Kendall/MIT 駅前で Moser 教授に温かく出迎えていただいた。駅から Moser 教授の案内を受けながら MIT　Sloan School of management へ移動。施設内では研究室の一室を紹介いただいた。見せていただいた研究室では火星移住研究が行われており、その説明を受けた。

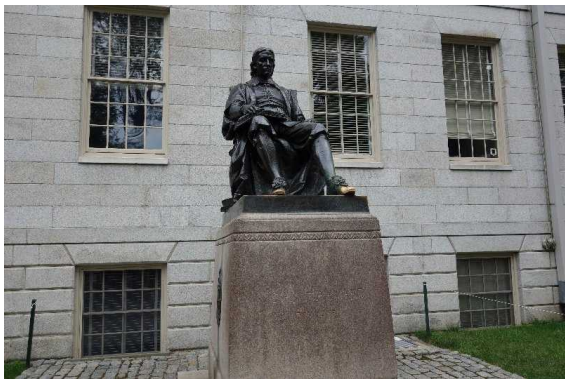
施設内見学の後、講義室へ。昨年に引き続き MIT 生が実際に講義を受けている部屋をお借りして、Moser 教授からグローバル社会の中で活躍するために必要なことについてご講義いただいた。以下講義の概要↓

Summary　：　resilient curiosity
1. be curious about complex things
2. interact to improve at collaboration
3. work across cultures on difficult problems
4. smile and take smart risks
5. strengthen identity and culture by interacting with others

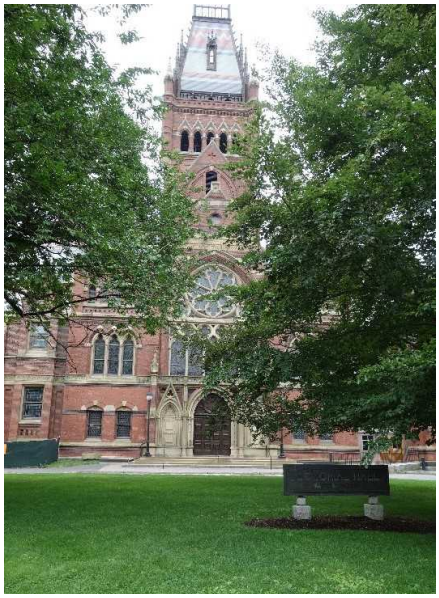
Important problems are difficult
Curiosity pushes learning despite difficulty
Be More Global & More Japanese at the same time!

Moser 教授より、今年は３名の日本人留学生をご紹介いただいた。３名の学生さんには Great Dome 内などを案内いただいた。昼食時に懇談の機会をいただき、学問や学生生活の様子などのお話を伺うことができた。３名とも社会人になってから MIT に留学しており、生徒は興味深く話を伺った。

②　ハーバー大学訪問



77Mas Ave MIT - Mas Ave Hdyoke St をバスにて移動。ガイドの案内でハーバード大学構内を見学した。Harvard Yard には大学の事務施設や１年生の寮が点在しており、丁寧に説明していただいた。例年訪れている Widener Library についても説明いただいた。タイタニック号沈没で息子を失った Widener 夫妻が、本好きだった息子を偲んで建設費を寄贈し建立された図書館である。その他、有名な John Harvard 像、メモリアルホールや Science Center などを見学しながら構内を巡った。



構内見学の後、Smith Campus Center を拠点に大学生へインタビューを実施した。参加生徒は事前研修において「積極性」の大切さを身に染みて感じており、意欲的に声掛けを行い（生徒によっては数十名の方へ)、複数のハーバード生から学校生活や学問の様子を聞き取ることができた。英語力の伸長を目標としている研修の一環として、より実践的な活動となった。

【二つの名門大学を訪問して】

MIT の最寄駅である Kendall/MIT 駅周辺には、Facebook、Google、Amazon、Apple 等といったアメリカを代表する大企業のオフィスが集中しており、訪れた当時も新しいオフィスの建設工事が行われていた。MIT 構内に目を向けると、Great Dome のように重厚な建物に混ざり Media Lab のような新しいデザインの建物が数多く見られる。留学生から授業の様子を伺ったが、ディスカッション形式の授業が多く、その授業にどれだけ貢献したか(発言したか)が評価され、緊張感をもって授業に臨んでいるということだった。世界有数の企業や世界各国の優秀な人材が集まり、切磋琢磨することで新しいものが生れていることを肌で感じる訪問だった。MIT からは数多くのノーベル賞受賞者が生れている。

MIT とは対照的に、ハーバード大学では重厚で歴史を感じる門や建物が目を引く。構内には講義棟と並び、第一次世界大戦や南北戦争の戦死者を祈念してつくられたメモリアル教会やメモリアルホールがある。ハーバード大学はアメリカ最古の高等教育機関であり、数多くのアメリカ大統領を輩出している大学である。翌日にフリーダム・トレイルのフィールドワークを実施したが、ボストンの街並み、歴史と相まって、アメリカ建国の歴史とともに歩んできている大学であることを強く感じた。

8 月 18 日（日）

③　フィールドワーク in Boston

研修二日目はボストンにおけるフィールドワークである。午前中は全体行動でフリーダム・トレイルを歩き、アメリカ建国の歴史を学ぶ。午後は３つのグループに分かれ班別自主行動を実施した。班別自主行動では個々の興味、関心に応じて班分けをし、ボストン美術館や科学博物館などを訪問した。自分たちの力で地下鉄を乗り継ぎ、時には現地の方に道を尋ねながら研修を行った。写真はﾌﾘｰﾀﾞﾑ・ﾄﾚｲﾙの一部。

【フリーダム・トレイルとは】
植民地時代、独立戦争、そして独立後のアメリカ創世記に、さまざまな歴史の舞台になった１６の史跡を見ることができる散歩道。赤いレンガで造られた線をたどることで、建国当時の歴史に触れることができる。

↑マサチューセッツ州議事堂

パーク・ストリート教会→
１８０９年建設のこの教会でウィリアム・ロイド・ギャリソンが奴隷制度反対の最初の演説を行った。

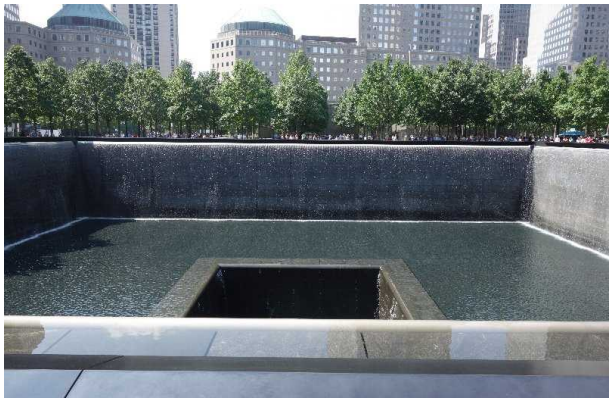
ベンジャミン・フランクリン立像→
印刷業で成功を収めた後、政界に進出。
アメリカ独立に多大な貢献をした。
現在の米１００ドル紙幣の肖像

8 月 19 日（日）

South Station - Pennsylvania Station をアムトラックで移動。赤レンガづくりの歴史的な建造物が多かったボストンから一転、近代的なビルが立ち並ぶニューヨークの街へ。

④　ワールドトレードセンター訪問（WTC）

2001 年 9 月 11 日にアメリカで発生した同時多発テロ事件から 18 年。長い年月が経ち、今回訪問する生徒が生れる前の出来事となっているが、巻き込まれた人々の悲しみは今も続いている。初めに「9/11 Tribute Museum」で様々な資料を見学した。館内には日本から送られた千羽鶴も展示されている。館内見学の後、ボランティアの方から当時の様子を伺った。実際に現場を訪れ写真等を使用した詳しいお話をいただくことで、平和への思いを強くした。



⑤　国際連合本部訪問

マンハッタンにある国際連合本部を見学した。おなじみの各国国旗が立ち並ぶ様子に一同感激。ちょうど日本国旗が掲揚されている前で集合写真を撮影することができた。厳重なセキュリティ・チェックがあり、入館。ガイドの方の丁寧な説明を聞きながら、安全保障会議の議場などニュースでよく目にする議場を回った。館内には紛争の様子を伝える展示などがあり、平和について考えさせられた。理事会議場ビルの西側のスペースには日本国際連合協会から寄贈された平和の鐘が置かれており、神社風の日本の建築物が建てられていた。

8 月 20 日（月）

⑥　ウォール街での研修

昨年に続き、安岡佳一氏より講義を受けながらウォール街を巡った。安岡氏は野村證券 NY やみずほ証券 USA などでの重役を歴任され、現代アメリカ金融の歴史を目撃されてきた方である。

Federal Hall、NY 証券取引所前から研修がスタートした。Federal Hall は 1789 年にアメリカ合衆国憲法の下にニューヨーク市が最初のアメリカ合衆国の首都となり、アメリカ合衆国議会最初の議事堂となった場所である。ジョージ・ワシントンが初代アメリカ合衆国大統領に選出された際この建物のバルコニーで就任演説を行っている。

Wall Street 研修の後、フードコートの一角で、アメリカ経済の現状、アメリカから見た日本等についてご講義いただいた。インターネット情報革命やスマホ、SNS の普及、シェールガス・シェールオイル革命等によりアメリカは第三の黄金期であり、今後、情報革命・AI・シンギュラリティー（人工知能が人間の知性を超えるという概念）等が注目ポイントである、といったお話を伺うことができた。

⑦　国際連合国際学校（UNIS）訪問

UNIS では、津田教授、Paco Moran 氏に温かく出迎えていただいた。同校はイーストリバー沿いにあるため、ベランダからは対岸の街並みが一望できる。ベランダでその景色を楽しんだ後、教室に入りご講義いただいた。講義では国際バカロレアの教育に則った模擬授業が展開された。ＩＢの学習者像に照らして自己を見つめ、自分やグループの傾向についてプレゼンテーションする活動や、自分が探究したい事柄について自ら問いを立て思考を掘り下げる活動などを体験させていただいた。こうした貴重な体験ができるのは津田教授、Paco Moran 氏のご理解ご協力があってこそである。感謝の念に堪えない。

8 月 21 日（火）

⑧　アスペン研究所におけるプレゼンテーション

研修の集大成ともいえるアスペン研究所でのプレゼンテーションが最終日に行われた。アスペン研究所の Anna Giorgi 氏、Calli Obem 氏、“Hunger Free America”の CEO である Joel Berg 氏という錚々たる Expert をお迎えし、2 グループに分かれて食料問題についての提言プレゼンテーションを行った。各グループの提言内容は以下のとおり。

Group A To increase the crop yield in Nuba　～improvement of farming method～

Group B A solution to child stunting in Bangradesh

プレゼン後 Expert から「最初に問いを立てる際、その内容を吟味することの重要性」や「現地の人々の社会構造や文化を理解する重要性」など数多くのアドバイスをいただいた。生徒たちは実効性のあるより良い提言にするため、限られた時間のなかで最大限の準備をしてきた。「分からないことはその道の詳しい人に聞く」ということを実践し、関係機関に自分達で連絡を取り、足を運んで情報収集した。答えのない問題に対して仲間と協力して取り組んできたこの経験は、本研修の目的である「解決困難な課題に対し根気強く立ち向かっていく力」を身に付けることにつながる有意義な活動となった。